



### <来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
12/20 (月)	▲ 2,000	+ 74,400	+ 72,400	国債大量償還・利払い	国債補完供給 + 100		
12/21 (火)	▲ 4,000	▲ 1,000	▲ 5,000				
12/22 (水)	▲ 3,000	▲ 1,000	▲ 4,000		共通担保 (全) ▲ 2,500		日：日銀金融政策決定会合議事要旨 (10/27・28開催分) 米：GDP(3Q)
12/23 (木)	▲ 4,000	トン	▲ 4,000				日：景気先行CI指数(10月) 黒田総裁、経団連審議委員会で講演
12/24 (金)	▲ 4,000	▲ 5,000	▲ 9,000				日：全国CPI(11月) 米：株式・債券市場休場 英：市場短縮取引

### <インターバンク>

日銀当座預金残高は週初13日、2006年7月14日以来となる即日物の国債買現先オペにより前営業日比+8,200億円の523兆9,100億円から始まった。その後も国債買現先オペや年金定時払いにより15日には534兆1,300億円まで増加し着地した。16日は国債買現先オペのエンド等により530兆7,600億円まで減少し、週末の17日は大きな動きもなく530兆6,900億円を越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初△0.009%から始まった。その後は11月積み期の資金繰りに目途をつけたビッドサイドの一部が調達量を抑えたことにより、14日には△0.014%、15日には△0.022%まで低下した。12月積み期初日の16日はオファーサイドの放出ニーズの強まりにより△0.033%から始まり、週末3日積みみの17日はビッドサイドの地銀業態を中心に調達意欲の高まりも見られ、前日比+0.005%の△0.028%となった。

ターム物は1W~2W物を中心に、主に△0.040%~△0.005%の水準で出会いが見られた。

日本銀行は17日の金融政策決定会合にて、当面の金融政策の現状維持及び「新型コロナオペア対応資金繰り支援特別プログラム」の2022年9月末までの一部延長を公表した。

来週の主な予定は、国内で22日に日銀金融政策決定会合議事要旨(10月27・28開催分)の公表や23日に黒田総裁の経団連審議委員会の講演、24日に全国CPIの公表(11月)などがあり、海外では22日に米GDPの公表(3Q)などが予定されている。

### <レボ>

積み終盤となる今週初の足許GC取引は、前週末対比上昇して、△0.040%近辺の出会いから始まった。火曜日は翌15日スタートで7兆円の国債買現先オペがオファーされ、その後GCレートは一時△0.060%近辺に低下した。新積み期に入った16日受渡しの取引以降は△0.085%前後の水準で推移、短国3M、6Mの発行が重なる20日受渡しの取引も、やや上昇ながらほぼ同水準で取引され越えた。SC取引では2年425~431回債、5年137~149回

### <CP>

今週の入札発行総額は約1兆2,600億円で、週間償還額(約9,900億円)を上回った。発行市場は、石油や電気機器等で大型の発行が行われ、活況となった。先週末の市場残高は26兆1,104億円と、過去最高残高である26兆866億円(2021年8月27日)を更新し、12月16日時点では26兆5,883億円と増加傾向にある。発行レートは、一部の年越え銘柄等で、深いマイナスでの約定が見られる等、△0.080%台~0.000%での出会いとなった。14日に、CP買入れオペが予定通り5,000億円でオファーされた。結果は案分レート△0.014%・平均落札レート△0.010%となり前回は(案分レート△0.014%・平均落札レート△0.011%)で概ね横ばいの結果となった。事業法人の大型発行が行われたことや、CP市場残高の積み上がり等から、底堅い売却ニーズがあったものと推測される。

17日まで開催された金融政策決定会合の結果、CP・社債等の買入れ増額措置は期限通り、2022年3月末で終了し、同年4月以降は感染症拡大前と同程度の買入れペースに戻し、その残高を感染症拡大前(CP等約2兆円、社債等約3兆円)へと徐々に引き下げるとの決定を公表した。

来週の週間償還額は、約2兆200億円となっている。発行市場は、良好なCP発行環境が継続するなか、5・10日発行も予定されており、活況なマーケットを予想する。発行レートは、ディーラーのコロナオペ担保目的等の引き受け需要が強く、期越え銘柄や希少銘柄等は深いマイナスレートを中心とした出会いを予想する。

### <TDB>

12月14日の6M1045回債(2022年6月16日償還)の入札は、最高落札利回り△0.1062%(前回債△0.1062%)、平均落札利回り△0.1082%(前回債△0.1102%)となり、12月15日の1Y1046回債(2022年12月20日償還)の入札は、最高落札利回り△0.1068%(前回債△0.1241%)、平均落札利回り△0.1088%(前回債△0.1261%) 12月16日の3M1047回債(2022年3月28日償還)の入札は、最高落札利回り△0.1098%(前回債△0.1068%)、平均落札利回り△0.1128%(前回債△0.1164%)となった。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

### [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.085 ~ 0.001
1M	△0.050 ~ 0.020
2M	△0.020 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.100
6M	0.000 ~ 0.130

### [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	△0.080 ~ 0.000